

令和3年度 事業報告

令和3年度 丹波篠山市社会福祉協議会 事業報告

基本目標「誰もがつながり 支えあうまち 丹波篠山」

新型コロナウイルス感染拡大、ウクライナ情勢の悪化は、私たちの生活に影響を及ぼし、日常生活に大幅な制約や変化を強いられることになりました。特に新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株の変異種から BA.2 株、更に新種の感染確認など、油断できない状況にあります。

平時にも指摘されていた生活のしづらさや、抱える悩みが顕著に現れたことから、地域住民、公私の社会福祉関係者がお互いに協力し、早急に地域生活を支える社会環境の整備と福祉課題解決に取り組まなくてはなりません。

このような中、社会福祉協議会では、地域の課題解決に向けた活動をはじめ、コロナ禍においても、何らかの支援を必要とする方々への見守り、声掛け、手助けなどの支え合い活動として、「給食・配食サービス事業」「友愛訪問活動」「見守り支援サポーター事業」を継続し、地域に根ざした地域福祉の実践を進めました。

また、若年層へボランティア活動のやりがい、楽しさを提案するため、参加しやすい期間や日時を指定し参加を呼びかけ、「災害ボランティア養成講座」の開催をはじめ、感染対策を講じながら計画した養成講座の開催も進めました。

新たに放課後児童健全育成事業として、篠山児童クラブを受託運営し、児童の健全育成と、仕事と子育ての両立への支援に取り組むとともに、歳末たすけあい運動配分事業として、こどもの居場所づくり「ささっこ広場事業」を実施しました。

生活困窮世帯には、生活福祉資金や緊急貸付資金の資金貸付や、生活協同組合コープこうべと連携してフードドライブやフードパントリーを実施し、食料支援を行いました。

法人運営については、財政基盤の強化を図り自主財源の確保に努め、その有効な活用として「生活困窮者等支援給付金制度」を制定するとともに、専門性を発揮できる人材を育成するため、社会福祉士国家資格取得を推奨し、4名が資格取得しました。

それぞれの事業報告は、以下のとおりです。

令和4年5月27日

社会福祉法人 丹波篠山市社会福祉協議会 会長 前田 公幸

推進目標1 「住民が地域福祉活動に主体的に参加するための基盤をつくります」

<p>1 生活支援サービス体制整備受託事業</p> <p>⑬ 生活支援サービス体制整備受託事業会計 11,277,344円 市受託</p>	<p>1 19地区で実施したアセスメントから、地域の資源や課題を把握し、地区独自の福祉課題について「代表者会議」「地区福社会議」を開催し、課題解決に向け協議を進めました。</p> <p>○代表者会議 45回(27回) *18地区で実施 参集者 自治会長会、民生委員児童委員協議会福祉委員連絡会、まちづくり協議会等の各代表者</p> <p>○地区福社会議 6回(4回) *6地区で実施 参集者 自治会、民生委員・児童委員、民生児童協力委員、福祉委員、まちづくり協議会等の各委員</p> <p>2 生活支援コーディネーター及びコミュニティーワーカーが民生委員児童委員協議会定例会、個別地域ケア会議等に出席し、ニーズ把握、ネットワーク作りを行いました。</p>
<p>2 福祉委員活動事業</p> <p>⑭ 共同募金配分金事業会計 972,529円</p>	<p>1 各自治会から選任された福祉委員により、福祉委員連絡会を組織し、地域福祉の向上を図りました。</p> <p>○福祉委員連絡会の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長副会長会 3回(3回) ・理事会 2回(2回) ・全体研修会 1回(1回) ・広報編集委員会の開催 3回(2回) ・福祉委員通信の発行(広報誌) 3回(2回) ・民生委員児童委員協議会支部長との意見交換会 1回(1回)
<p>3 福祉学習推進事業</p> <p>⑭ 共同募金配分金事業会計 101,980円</p>	<p>1 学校で実施する福祉学習の提案や講師派遣により車いす体験、アイマスク体験、点字教室を開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験学習 5回(5回) ・アイマスク体験学習 4回(4回) ・点字教室 1回(1回) ・認知症サポーター養成講座 1回(0回)

※1 左欄は、事業名、会計決算番号と会計名、決算額及び市の補助・受託事業の別

※2 () 内数字は、令和2年度実績

推進目標2「地域の見守り、支え合い活動を推進します」

<p>1 ボランティア活動支援事業</p> <p>② ボランティア活動支援事業会計 933,745円</p>	<p>1 ボランティアセンターを運営し、活動相談、情報発信による活動支援と、ボランティア保険の加入を促し、ボランティアネットワークを強化しました。</p> <p>また、ボランティア連絡協議会の事務局として、活動支援を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアコーディネート件数 50件(44件) ・人材バンク登録数 35団体(33団体) ・市民活動災害共済 1,881名(2,072名) ・天災危険保障プラン 44名(42名) ・行専用保険 49件(50件) <p>2 次の5つの養成講座を開講し、ボランティアの担い手を育成するとともに、ボランティアグループへの加入を呼びかけました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育ボランティア養成講座 1回3シリーズ ・災害ボランティア養成講座 1回2シリーズ ・地域支え合い講座 1回3シリーズ ・傾聴ボランティア養成講座 1回3シリーズ ・福祉レクリエーションボランティア養成講座 1回2シリーズ
<p>2 ボランティア活動費補助事業</p> <p>③ ボランティア活動費補助事業会計 364,760円</p>	<p>1 ボランティアグループの活動費を補助し、グループ活動を支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループ 24グループのべ305名 (27グループのべ321名) ・ボランティア活動費助成団体数 19グループ ・補助額 グループの人数による
<p>3 手話奉仕員・点訳奉仕員養成受託事業</p> <p>⑩ 手話奉仕員養成受託事業会計 1,449,526円 市受託</p>	<p>1 視覚障がい者を支援するため、点訳技術を習得する点訳奉仕員養成講座を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初級課程 1回8シリーズ 修了者3名 <p>2 共通の言語である手話の充実を図るため、手話奉仕員の養成のために2講座を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入門課程 1回20シリーズ 修了者10名 ・基礎課程 1回24シリーズ 修了者9名

<p>4 福祉団体育成事業</p> <p>⑭ 共同募金配分金事業会計 405,823 円</p>	<p>1 福祉団体の活動を支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブ連合会 会員 3,980 名 (4,361 名) 6 支部 82 クラブ (88 クラブ) ・身体障害者福祉協議会 会員 147 名 (160 名) ・手をつなぐ育成会 会員 76 名 (74 名)
<p>5 一人暮らし高齢者等友愛訪問事業</p> <p>⑭ 共同募金配分金事業会計 546,741 円</p>	<p>1 民生委員・児童委員の協力を得て、一人暮らし高齢者等の誕生日に自宅を訪問し、障がい者福祉事業所クッキーを手渡し、高齢者の生活状況を見守る友愛訪問を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者 見守りの必要な 65 歳以上の一人暮らし高齢者等 1,418 名 (1,424 名) <p>2 市老人クラブ連合会と協同して、101 歳以上の長寿者にお祝い品を贈りお祝いしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者 101 歳以上の長寿者 36 名 (28 名)
<p>6 見守り支援サポーター事業</p> <p>⑬ 生活支援サービス体制整備受託事業会計 236,568 千円 市受託</p>	<p>1 地域において、手助けをしてほしい人と(依頼会員)、お手伝いをしたい人(サポート会員)を会員登録し、感染症対策の徹底と、会員双方の了解のもと、家事や見守りなど生活支援を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員数 依頼会員 158 名 (126 名) 協力会員 43 名 (31 名) ・支援回数 944 回 (974 回) ・利用料 1 時間 600 円 <p>2 見守り支援サポーター会員の養成講座や交流会を開催し、サポート会員を育成しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サポート会員養成講座 3 回 (2 回) <ul style="list-style-type: none"> ・受講者数 23 名 (11 名) ・新規登録者 11 名 (6 名) ○サポート会員交流会 1 回 <p>3 大芋地区福社会議の機会を通じ、より身近な地域での生活支援体制のあり方を提案しました。</p>
<p>7 介護支援ボランティアポイント制度事業</p>	<p>1 介護保険施設などでボランティア活動に対し、ポイント付与(年度末に換金)を行う、高齢者のボランティア活動を支援しました。</p>

<p>⑬ 生活支援サービス体制整備受託事業会計 69,786円 市受託</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会員数 78名 (84名) ・ポイント付与数 97回 (136回) ＊1時間＝1ポイント100円
<p>8 集落等福祉活動事業</p> <p>⑭ 集落等福祉活動事業会計 728,171円 市補助</p>	<p>1 高齢者が気軽に集い、孤立感の解消と心身機能の維持向上を目的としたサロン活動を実施するため、市内10自治会を指定し補助を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大のため、見守り訪問活動などサロン以外の活動を補助対象に含め、コロナ禍でも継続して地域のつながりづくりができるよう対象事業としながら、集落福祉活動の推進支援を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規自治会 3自治会 (矢代、大山下、住吉台) ・継続自治会 7自治会 (糯ヶ坪、渋谷、長安寺、東古佐、音羽グリーンタウン、小原、波賀野新田) ・補助金額 102,000円 / 1自治会

推進目標3「暮らしを支える福祉サービスと相談体制を強化します」

<p>1 東部地域包括支援センター</p> <p>⑳ 東部地域包括支援センター公益事業会計 34,410,734円 市受託、市補助</p>	<p>1 社会福祉士、保健師又は経験のある看護師、主任介護支援専門員の3職種を配置し、介護、医療、保健、福祉の分野から高齢者を総合的、且つ包括的な支援を行いました。</p> <p>(1) 東部・西部地域包括支援センター</p> <p>①介護予防ケアマネジメント業務</p> <p>ア 新規プランは「自立支援型ケアマネジメント会議」で検討してアセスメント力の向上に努め、自立支援の視点を学びながらプランの適正化を図りました。</p> <p>○自立支援型ケアマネジメント会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 24回 (24回) ・実施件数 169件 (169件)
<p>2 西部地域包括支援センター</p> <p>㉑ 西部地域包括支援センター公益事業会計 30,700,589円 市受託、市補助</p>	<p>イ 支援の必要な本人や家族、地域住民を支えることを目的に、コロナ禍でできる取り組みとしてyoutubeを利用して映像配信し、“認知症”をテーマに介護セミナーを開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護セミナー (映像配信) 1回 (0回) <p>②総合相談支援業務</p> <p>ア 高齢者の各種相談に総合的に対応し、その方に必要なサービスや制度を紹介し、具体的な対応策について</p>

て分かりやすく説明しました。関係機関の会議や、ふれあい・いきいきサロン等で介護セミナーのチラシやセンターのPRチラシを配布しました。また、市内の医療機関・歯科医院に、高齢者の相談窓口として地域包括支援センターの周知を図りました。

月1回「地域包括支援センターだより」は民生委員・児童委員や各事業所等への配布を続け、社協HPにも掲載して、地域包括支援センターの周知、啓発を行いました。その他、「丹波篠山映像祭 2022」とyoutubeにセンターのPR映像を配信しました。

○相談件数

- ・東部 1,127件 (1,325件)
- ・西部 1,579件 (1,311件)

③ 権利擁護業務

ア 高齢者虐待の早期発見・予防、成年後見制度の利用促進に向け、市及び権利擁護サポートセンターと連携を強化し、月1回のモニタリング会議への参加と、社協の「日常生活自立支援事業」の専門員や後見人と連携を図りました。

また、権利擁護サポートセンター主催の事例検討会(年4回)に参加し、支援困難な事例や虐待対応終了の振り返りなど支援者のスキルアップを図りました。

④ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

ア 居宅介護支援事業所のケアマネジャーからの相談に応じ、事例の意見交換や支援の振り返りから課題や不足する視点を明らかにし、改善策を検討しました。

イ 民生委員・児童委員とケアマネジャー・相談支援専門員の交流会を開催して関係性を構築し、緊急時や災害時を含む見守り体制等について意見交換しました。

ウ 市が実施した「防災と福祉の連携促進モデル事業」について、後川下自治会(東部、後川地区)、大山下自治会(西部、大山地区)で「当事者アセスメント」に基づく「個別ケース会議」「災害ケアプランの作成」「地域の避難訓練」に参画しました。

⑤ 地域ケア会議の開催

ア 「個別地域ケア会議」「地区福社会議」をきっかけに、専門職と地域住民との顔の見える関係づくりと、既存組織や地域とのつながりを深めるため、地域課題について考える機会を継続しました。

- ・地域ケア会議 53回 (62回)

イ 地域包括ケアシステム構築に向けた「個別地域ケア会議」を開催し、個別の課題解決の過程から出てきた地域全体の課題について「みんなの暮らしサポート会議」を開催しました。令和3年度は「運転」をテーマに話し合いました。

⑥ 認知症対策事業

ア ささやま認知症支援チームの一員として、相談、専門受診へのつなぎ、必要な支援につながらない方への働きかけを行いました。タイムリーな支援に向けてフローチャートを活用し、もの忘れ相談センターと協働しました。また、月1回の認知症モニタリング会議、年2回の専門対応会議に参加し、個別支援の検討や認知症対策への取り組みについて協議しました。

○認知症カフェ 5か所 (5か所)

イ キャラバンメイト連絡会の一員として「認知症サポーター養成講座」に積極的に参加し、認知症の理解促進や地域づくりに向け働き掛けました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、依頼が減少しました。

○認知症サポーター養成講座の開催

・東部2か所、西部3か所、共同1か所

⑦ 在宅医療と介護の連携推進事業

ア より良い医療と介護連携のため「退院調整ルール」や「つながり手帳」の見直しに参画しました。また、自分らしく生きるための医療・介護のあり方 ACP (人生会議) について市と協議し研修予定でしたが、コロナ蔓延防止のため延期されました。

(2) 東部・西部指定介護予防支援業務

① 介護予防サービス計画作成業務・介護予防ケアマネジメント計画作成業務

ア 新規プランは「自立支援型ケアマネジメント会議」に提出し、高齢者本人が役割を持ち、主体的に取り組む“自立支援”に資するケアプランへの検討を深め、適切なケアプランが作成できるよう資質の向上に努めました。

○介護報酬請求件数

- ・東部 ケアプラン 1,428件 (1,261件)
ケアマネマネジメント 468件 (401件)
- ・西部 ケアプラン 1,394件 (1,493件)
ケアマネマネジメント 351件 (305件)

<p>3 居宅介護支援公益事業</p> <p>㉓ 居宅介護支援公益事業会計 22,605,005 円</p>	<p>1 居宅介護支援事業所において、利用者の在宅生活における生活目標を実施するため、介護保険法に基づくケアプランを作成しました。</p> <p>また、資質向上のため他事業所との合同勉強会や研修計画を立案しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 139 名 (130 名) ・ケアプラン件数 1,675 件/年 (1,611 件) <p>2 特定加算事業所として質の高い支援に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24 時間体制による時間外対応件数 88 件 (80 件)
<p>4 訪問介護サービス事業</p> <p>㉔ 訪問介護サービス事業会計 38,243,676 円</p>	<p>1 訪問介護事業所において、介護保険法に基づく訪問介護サービスの提供や、利用者の自立支援に向けたサービスに努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 840 名 (768 名) ・訪問回数 9,490 回 (8,855 回) <p>2 訪問介護事業所において、介護保険法に該当しないサービスの提供を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 26 名 (17 名) ・訪問回数 38 回 (22 回)
<p>5 障害者総合支援事業</p> <p>㉕ 障害者総合支援事業会計 25,866,277 円</p>	<p>1 居宅介護事業所において、障害者総合支援法に基づく障がい者、障がい児の居宅介護サービスを提供しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 348 名 (336 名) ・訪問回数 5,268 回 (5,537 回)
<p>6 相談支援事業</p> <p>㉖ 相談支援事業会計 7,392,135 千円</p>	<p>1 相談支援事業所において、障害者総合支援法に基づく障がい者、障がい児のケアプランの作成や、専門機関など福祉サービス事業所との連携による相談しやすい窓口として、利用者の自立した生活を支援しました。</p> <p>また、主任相談支援専門員の資格を取得し資質向上に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総利用計画作成件数 99 件 (87 件) ・月平均モニタリング報告書作成及び利用計画作成 34 件 (38 件)
<p>7 心配ごと相談所事業</p>	<p>1 地域の身近な「よろず相談所」として、市内6か所に窓口を設け、日常生活上のあらゆる相談に応じ、適切な助言や援助を行いました。また、法的分野、専門</p>

<p>⑭ 共同募金配分金事業会計 70,168 円</p>	<p>知識を要する相談は、専門機関と連携し課題を解決しました。(市役所の行政相談、法務局の人権相談を同時に開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設日 32日(33日) ・件数 6件(6件) ・相談員 専任相談員、民生委員・児童委員 ・場所 丹南健康福祉センター、市民センター他
<p>8 生活福祉資金貸付事業</p> <p>⑧ 生活福祉資金貸付事業会計 1,109,449 円 県社協受託</p>	<p>1 生活の再建と更生を目的に、生活福祉資金と新型コロナウイルス特例貸付の申請受付窓口として、生計維持が困難となった世帯からの相談、貸付申請を受け付けました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金名 教育支援資金、福祉資金、総合支援資金、臨時つなぎ資金、不動産担保型生活資金 ・対象者 他の貸付制度が利用できない低所得世帯、高齢者、障がい者世帯 ・新規貸付件数 1件(1件) ・総貸付件数 21件(20件) <p>2 新型コロナウイルスの影響を受け、緊急、かつ一時的な生活維持を図るため貸し付けを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急小口資金 65件(156件) ・総合支援資金 58件(102件) ・総合支援資金(再貸付) 55件
<p>9 緊急貸付資金事業</p> <p>⑱ 緊急貸付資金事業会計 1,036,500 円</p>	<p>1 急な失業、病気などで預金もなく、他の金融機関で貸し付けを受けられない低所得世帯に貸し付けを行いました。生活再建に向け、償還指導を実施し支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金名 緊急貸付資金 ・対象者 他の金融機関で貸し付けを受けられない所得の少ない世帯 ・新規 21件(25件) ・貸付総件数 44件(43件) ・貸付額 10万円(保証人なしの場合は3万円)
<p>10 生活困窮者等支援給付金事業</p>	<p>1 現行の福祉の制度の狭間において、著しく生活が困窮する事態を招く恐れのある世帯への支援として「生活困窮者等支援給付金制度要綱」を制定しました。給付については、対象事案の発生はありませんでした。</p>

	<p>2 制定前段の支援として、生活困窮世帯に関連して、地域環境保全（ごみ処理支援）や山内町大規模火災現場支援（法人運営会計より 800 千円）など、ボランティア団体と連携した活動を展開しました。</p> <p>○地域環境保全支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月22日、23日、30日（篠山地区） ・ 8月5日（丹南地区） ・ 2月21日（篠山地区） <p>○山内町大規模火災現場支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月28日、29日（篠山地区） 																				
<p>11 篠山児童クラブ運営受託事業</p> <p>⑯ 篠山児童クラブ運営受託事業会計 20,271,572 円 市受託</p>	<p>1 運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新1年生の支援を要する児童への対応について、補助員1名を増員し、休業期間は県立高校及び市内大学生のアルバイトにより補助員の体制を整え運営しました。 ・ 新型コロナ経済対策により、支援員等の処遇改善（賃金 9,000 円以上）を2月から実施しました。 <p>2 環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 園庭の老朽遊具の撤去、トイレの洋式化等を実施し、環境改善を図りました。 ・ 次年度利用者の申込状況が、通年で100人に達していることから、保育室（支援単位）3室から4室（倉庫室を市が改修）の体制となりました。 <p>○利用児童数</p> <table border="1" data-bbox="614 1489 1412 1780"> <thead> <tr> <th>学 校 名</th> <th>通年 児童数</th> <th>休業期間 児童数</th> <th>計</th> <th>年度中の 増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>篠山小学校</td> <td>54人</td> <td>19人</td> <td>73人</td> <td>+6人</td> </tr> <tr> <td>八上小学校</td> <td>28人</td> <td>18人</td> <td>46人</td> <td>+4人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>82人</td> <td>37人</td> <td>119人</td> <td>+10人</td> </tr> </tbody> </table>	学 校 名	通年 児童数	休業期間 児童数	計	年度中の 増減	篠山小学校	54人	19人	73人	+6人	八上小学校	28人	18人	46人	+4人	計	82人	37人	119人	+10人
学 校 名	通年 児童数	休業期間 児童数	計	年度中の 増減																	
篠山小学校	54人	19人	73人	+6人																	
八上小学校	28人	18人	46人	+4人																	
計	82人	37人	119人	+10人																	
<p>12 ファミリーサポートセンター補助事業</p>	<p>1 育児の支援を受ける者（依頼会員）、援助を行う者（協力会員）、双方を行う者（両方会員）を組織化し、支え合いによる子育てを支援しました。</p>																				

<p>⑫ ファミリーサポートセンター補助事業会計 707,420円 市補助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼会員 224名 (225名) ・協力会員 72名 (71名) ・両方会員 29名 (30名) ・支援回数 97回 (74回) <p>2 依頼会員の交流会、協力会員のフォローアップ講習会を開催し、子育て中の保護者や親子でのつどい場の提供と、協力会員のスキルアップを進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員交流会 5回 (5回) 参加者 60名 ・会員講習会 2回 (3回) 参加者 31名
<p>13 子ども一時預かり事業 ⑭ 共同募金配分金事業会計 48,951円</p>	<p>1 一時的に子どもを預かり、子育て中の保護者の負担を和らげ、子育て環境を向上させるため、一時預かり事業を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者 生後6か月から就学前子どもの保護者 ・回数 12回 (18回) ・場所 市役所の公民館等
<p>14 給食サービス事業 ⑮ 給食サービス事業会計 1,712,939円 ⑯ 配食サービス受託事業会計 1,742,354円 市受託</p>	<p>1 週2回 (内1回は市受託事業) 利用者の食生活を支え、安否確認を兼ねた給食サービスを実施しました。コロナ禍でも感染予防に留意し、支援を継続しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者 70歳以上の高齢者 51名 (52名) ・実施日 水曜日 47回 (48回) ・利用料 450円 ・調理 ①ボランティアグループ水曜会・金曜会 (多紀、城東地区) ②障がい者福祉事業所4か所 (篠山、西紀、丹南、今田地区) <p>○市受託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者 65歳以上の高齢者 57名 (43名) ・実施日 金曜日 48回 (44回) ・利用料 500円 ・調理 障がい者福祉事業所4か所 (全地区)
<p>15 フードパントリー事業 ⑰ 歳末たすけあい運動事業会計 215,439円</p>	<p>1 コープこうべより食料品、日用品の寄付をいただき、生活が厳しい世帯に無料で提供するフードパントリーに取り組み、生活困窮者支援、子育て世帯に配分しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配分世帯 63世帯

<p>16 外出支援サービス 受託事業</p> <p>⑦ 外出支援サービス受 託事業会計 5,619,397円 市受託</p>	<p>1 公共交通を利用することが困難な方の通院を支援しました。また、24時間テレビチャリティー委員会より、リフト付車両の贈呈を受け、移送車両を刷新しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者 107名(121名) *車いす利用者(若しくはそれに該当する者) ・実施日 月～金曜日 175日(184日) ・利用料 市内500円/片道 市外1,000円/片道 <p>2 福祉有償運送制度に基づき、運転員の交通安全講習会の受講や運転適性診断を受け、法令を遵守した安全運行に努めました。</p>
<p>17 ひきこもり支援事業</p> <p>⑤ ひきこもり支援事業 会計 411,526円</p>	<p>1 ひきこもり状態にある方に、作業体験やつどいの場を提供し、社会参加への支援を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事務作業、屋外作業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・事務作業 21回 のべ参加者 94名 ・屋外作業 7回 のべ参加者 7名 ○「つどいの場」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・回数 12回(3回) ・参加者 のべ50名(8名) ○就労体験の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・登録者 1名 ・就労日 91日 2～3日/週(4時間程度) ・内容 喫茶ふれあいで接客、皿洗いなど <p>2 ひきこもり支援を行うNPO法人「結」や、市内外の関係機関と連携し、情報を共有しました。</p>
<p>18 要保護児童への支援事業</p> <p>⑭ 共同募金配分金事業会計 309,525円</p>	<p>1 保護者の就労等により、食事を一人で取りがちな児童や、生活が厳しい世帯の児童、生徒を、夏季冬季の休みに「ささっこ食堂」を開催し、支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ささっこ食堂(こども食堂)の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・回数 3回(2回)のべ9日(5日) ・参加者 11名(4世帯) ・内容 学習支援、食事提供他 <p>2 地域で開催されている「こども広場」への補助を行い、継続的な運営を支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施地域 2か所(2か所)*1か所上限15万円

<p>19 介護機器貸出事業</p>	<p>1 車いすを無料（1週間以内）で貸し出し、介護者の負担軽減を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出件数 20件 ・保有台数 13台
<p>20 日常生活自立支援事業</p> <p>⑨ 日常生活自立支援事業会計 4,302,892円 県社協補助</p>	<p>1 判断能力に不安がある利用者に対して自己決定を尊重し、福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理、通帳印鑑の預かりサービスの支援をしました。 コロナ禍においても、感染予防に留意し支援を継続しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 35名（33名） ・新規利用者 8名（5名） ・利用回数 832回（781回） ・利用料 1,000円／1時間 <p>2 市や地域包括支援センターと情報共有し、判断能力が著しく不十分な契約希望者については、権利擁護サポートセンターと連携し、成年後見制度に繋げました。</p> <p>3 支援者会議に参加し、情報共有と多職種連携を図り困難ケースの対応に努めるとともに、生活支援員の研修会を開催し、資質向上に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援員 10名（10名） ・支援員連絡会 1回（1回）
<p>21 喫茶ふれあい収益事業</p> <p>⑫ 喫茶ふれあい収益事業会計 6,644,306円</p>	<p>1 市民や健康福祉センター利用者が気軽に集える憩いの場として、また、ひきこもり就労支援の場として、喫茶ふれあいの利用促進に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日の平均利用者数 約26名（約28.7名） <p>○ひきこもり就労支援への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者 1名（2名） 就労日91日（146日） ・ささっこ食堂の共同開催 9日／年（5日） <p>○要保護児童への支援事業（ささっこ食堂）への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事提供 199食 <p>2 テイクアウト（夕食）を実施し、売り上げ向上に努めました。</p>

推進目標4「住民から信頼される社協を目指します」

<p>1 法人の運営に関する事業</p> <p>① 法人運営事業会計 70,453,952円</p>	<p>1 第4次地域福祉推進計画の進捗状況を確認し、社会福祉法人として体制構築の強化に努めました。</p> <p>○法人の運営を決定する会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長、副会長会 5回(4回) ・理事会(法人の重要事項の協議) 6回(5回) ・評議員会(法人の最終決定) 3回(3回) <p>○法人の運営を監査する会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監事会 2回(2回) <p>○評議員、理事、監事の選任に関する委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評議員選任・解任委員会 1回(1回) ・理事及び監事推薦委員会 1回(1回)
<p>2 役職員の資質向上を目的に行う研修会事業</p> <p>① 法人運営事業会計 2,304円</p>	<p>1 理事、監事、職員の研修会を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事、監事研修会 1回(1回) ・丹波ブロック職員研修会 2回(2回) ・職員研修会 5回(専門研修2回 共通研修3回=会計 人権学習 交通安全) <p>2 日常業務を遂行する上で、必要な国家資格の取得を推奨しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士合格者 3名
<p>3 高福祉を維持するため、それを実行する職員を支える事業</p> <p>① 法人運営事業会計 490,660円</p>	<p>1 産業医による職員の安全衛生の指導に基づき、職員の健康維持・増進に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生委員会 6回(4回) ・職場の巡視 3回(3回) ・職員健康研修会 1回(1回) ・職員健康チェック 1回(1回) ・ストレスチェック 1回(1回) <p>2 産業医の指導のもと、職場環境の点検、職員の健康管理及びメンタルヘルスチェックを行いました。</p>
<p>4 緊急時の大自然災害、感染症に対応する事業</p> <p>① 法人運営事業会計 8,781円</p>	<p>1 近年の大自然災害、感染症に迅速に対応するため、その対策を協議し、常に意識を持ち続け、有事に備えた対策に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策会議 1回 ・防災訓練への参画

	<p>2 社協各事業所の新型コロナウイルス感染症における業務継続計画を策定しました。</p> <p>3 新型コロナウイルス感染症対策において、社協職員で陽性者はなく、濃厚接触者となるも国の対応指針等に基づき、社協事業を展開しました。</p>
<p>5 社会福祉大会の開催、広報の発信に関する事業</p> <p>⑭ 共同募金配分金事業会計 925,282 円</p>	<p>1 新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会福祉大会は2年連続で中止しました。</p> <p>2 市民の皆さんに、福祉の情報と会費の使途を伝えました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の発行 6回(6回) ・会費納入依頼PR誌の発行 1回(1回)
<p>6 善意銀行運営事業</p> <p>⑰ 善意銀行運営事業会計 850,536 円</p>	<p>1 善意の金品預託を受け、預託者の意思を尊重し、基金に積み立て地域福祉事業の推進に活用しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金銭預託 44件(49件) 806千円(2,884千円) ・物品預託 63件(82件) 食料品、紙オムツ等 <p>2 山内町火災見舞金として、800千円を給付しました。</p>
<p>7 赤い羽根共同募金運動</p> <p>⑱ 共同募金配分金事業会計 4,200,835 円</p>	<p>1 10月を共同募金の強化月間として、自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員、ボランティア等の関係機関の協力を得て、赤い羽根共同募金運動に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募金活動 戸別募金、街頭募金、法人募金 学校募金、職域募金、個人募金 ・募金百貨店 8事業所(7事業所) <p>2 共同募金推進委員会 2回(2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同募金運動及び歳末たすけあい運動について ・地域歳末ふれあい交流事業について
<p>8 歳末たすけあい運動</p> <p>(⑲ 歳末たすけあい運動事業会計) 2,796,994 円</p>	<p>1 12月に自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員、ボランティア等の関係機関の協力を得て、歳末たすけあい運動募金活動に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募金活動 戸別募金、街頭募金、職域募金 イベント募金、個人募金 ・配分事業 ①地域歳末ふれあい交流事業 25団体(26団体)

	<p>②ひとり暮らし高齢者友愛訪問事業 1,408名(1,424名)</p> <p>③障がい者福祉事業所支援事業 29事業所(24事業所)</p> <p>④短期里親里子配分事業 里親1世帯(3世帯)、 里子2名(3名)</p> <p>⑤フードパントリー事業 配分世帯 63世帯</p> <p>⑥ささっこ広場事業 参加者 198名 場 所 市内5か所</p>
--	--